

### Ⅲ 結果のあらまし



## 1. 定住意識

居住年数を聞いたところ、「30年以上」(42.4%)が4割強で最も高く、次いで「20～30年未満」(21.0%)が約2割、「10～20年未満」(16.2%)が2割弱となっている。「1年未満」(2.3%)と「1～5年未満」(7.2%)、「5～10年未満」(8.3%)の3つを合わせた【10年未満】(17.8%)は2割弱となっている。

定住意向を聞いたところ、「ずっと住み続けたい」(45.9%)と「当分の間住みたい」(27.4%)の2つを合わせた【住み続けたい】(73.3%)が7割強と高くなっている。一方、「できれば市外に転居したい」(8.4%)と「転居する」(2.1%)の2つを合わせた【転居したい】(10.5%)は約1割となっている。

「ずっと住み続けたい」または「当分の間住みたい」と答えた方に、定住したい理由を聞いたところ、「むかしから住んでいるから」(43.3%)が4割強で最も高く、次いで「実家や親族に近いから(または同居しているから)」(36.6%)、「日常の買い物などに便利だから」(36.2%)、「自然環境が良いから」(31.7%)、「通勤や通学に便利だから」(30.3%)となっている。

「できれば市外に転居したい」または「転居する」と答えた方に、移転したい理由を聞いたところ、「騒音などの公害があるから」(44.2%)が4割台半ばで最も高く、次いで「通勤や通学に不便だから」(19.2%)、「地域のイメージや土地柄が悪いから」(16.7%)、「実家や親族が遠いから(または同居予定)」(15.8%)、「日常の買い物などに不便だから」(12.5%)となっている。

## 2. 生活環境評価

地域の住みよさについて、13項目に分けて評価を聞いたところ、「非常に満足」と「まあ満足」の2つを合わせた【満足】は、ごみの収集方法(49.0%)が約5割で最も高く、次いで食料品、日用品の買い物の便(47.3%)、緑や空気などの自然環境(44.3%)、通勤・通学や外出のときの交通の便(43.9%)となっている。一方、「やや不満」と「不満」の2つを合わせた【不満】は、騒音・振動・大気汚染などの公害対策(43.5%)が4割強で最も高く、次いで老後の生活を送る場として(22.9%)となっている。

生活環境の評価を比率でみるのとは別に、その比較をより明確にするために加重平均値による数量化を行った。これは、「非常に満足」に2点、「まあ満足」に1点、「普通」に0点、「やや不満」に-1点、「非常に不満」に-2点として、各評価に点数を与え、評価点を算出する方法である。この算出方法では、評価点は+2.00点～-2.00点の間に分布し、中間点の0.00点を境に、+2.00点に近いほど評価は高く、逆に-2.00点に近いほど評価は低いことになる。

評価点が最も高い項目はごみの収集方法(0.45)で、次いで緑や空気などの自然環境(0.44)、食料品、日用品の買い物の便(0.39)となっている。一方、騒音・振動・大気汚染などの公害対策(-0.45)と老後の生活を送る場として(-0.07)の2項目はマイナスの評価点となっている。

生活環境の総合評価を聞いたところ、「非常に住みやすい」(6.4%)と「まあ住みやすい」(46.6%)の2つを合わせた【住みやすい】(53.0%)が5割強と高くなっている。「普通」(33.2%)は3割強となっており、「やや住みにくい」(10.2%)と「非常に住みにくい」(1.6%)の2つを合わせた【住みにくい】(11.8%)は1割強となっている。

### 3. 福生市の魅力と将来像

福生市内の施設や行事の中で、福生市らしい魅力を感じるものを聞いたところ、「七夕まつり」(70.4%)が約7割で最も高く、次いで「多摩川沿いのサクラ並木」(48.3%)、「横田基地」(42.0%)、「ほたる祭」(38.2%)、「多摩川」(37.2%)となっている。

将来の福生市はどのようなまちであってほしいか聞いたところ、「高齢者や障害者が安心して生活できるまち」(48.5%)が5割弱で最も高く、次いで「災害や交通安全に配慮した安心して生活できるまち」(40.7%)、「安心して子育てができるまち」(24.2%)、「緑豊かな美しい景観のまち」(23.7%)、「子どもの教育環境が良いまち」(15.7%)となっている。

まちの魅力を高めるために、重点を置くべき分野を聞いたところ、「福祉」(54.0%)が5割台半ばで最も高く、次いで「防犯」(48.1%)、「子育て」(41.9%)、「環境」(41.6%)、「防災」(36.2%)となっている。

### 4. 環境問題

ごみ減量やリサイクルのために心がけていることを聞いたところ、「洗剤やシャンプーなどは詰め替え用を買う」(85.4%)が8割台半ばで最も高く、次いで「買い物袋を持参している」(68.9%)、「汚れの落ちる資源物はできるだけ洗い、資源の日に出す」(56.5%)、「生ごみの水切りをしている」(50.2%)、「不要なものや使い捨て商品は買わない、過剰包装は断る」(50.0%)となっている。

関心のある環境問題を聞いたところ、「地球温暖化」(80.2%)が約8割で最も高く、次いで「自然破壊」(47.8%)、「水質汚染」(34.2%)、「オゾン層の破壊」(32.9%)、「放射線量」(31.5%)となっている。

### 5. 福祉社会

子育てに必要な施策を聞いたところ、「子どもの安全が確保され安心して子育てができるまち(地域)づくりの推進」(47.2%)が5割弱で最も高く、次いで「子育てに対する経済的な負担を軽くするための施策」(36.5%)、「保育サービスの充実と待機児解消」(29.7%)、「学校教育を充実させる取組み」(20.9%)、「身近な地域で子育ての相談や学習などが気軽にできる環境の推進」(14.1%)などとなっている。

ボランティア活動の経験を聞いたところ、「ボランティア活動に参加したことがあり、今後も参加する(したい)」(23.8%)と「ボランティア活動に参加したことがあるが、今後は参加したいと思わない」(9.6%)の2つを合わせた【参加したことがある】(33.4%)が3割強となっている。一方、「ボランティア活動に参加したことはないが、今後は参加したい」(35.6%)と「ボランティア活動に参加したことはなく、今後も参加したいと思わない」(27.9%)の2つを合わせた【参加したことはない】(63.5%)は6割強となっている。

老後をどのように暮らしていきたいか聞いたところ、「毎日の生活の中で、家族や友人などの関わりを持ちながら暮らしたい」(37.3%)が4割弱で最も高く、次いで「趣味を深めたり、新しい知識を身につけたい」(29.4%)、「自分に適した仕事を持ちたい」(20.8%)となっている。

福祉のまちづくりを実現するために実施している取組み、または取り組むことができるものを聞いたところ、「まちの中で高齢者や障害者の方が困っていたら、手助けをする」(77.8%)が8割弱で最も高く、次いで「自転車、物品、看板等の路上放置はやめる」(50.3%)、「虐待やいじめではないかと感じたら、速やかに関係機関等に通報する」(41.9%)、「植栽等は歩道へはみ出さないようにする」(36.0%)となっている。

地域福祉の充実のための6項目の各種事業計画の認知状況を聞いたところ、「良く知っている」と「少し知っている」の2つを合わせた【知っている】は、健康増進計画(健康ふっさ21)(30.7%)が約3割で最も高く、次いで子ども・子育て支援事業計画(27.4%)、バリアフリー推進計画(24.9%)、介護保険事業計画(21.2%)となっている。

## 6. 横田基地

横田基地の賛否を聞いたところ、「あってもやむを得ないが、騒音対策や生活環境整備に力を入れるべきだ」(59.1%)が約6割で最も高く、これと「国政上の問題であり、あってもやむを得ない」(18.9%)、「国の防衛政策上のための施設であり、あって当然である」(7.2%)の3つを合わせた【肯定派】(85.2%)が8割台半ばと高くなっている。

横田基地のあり方を聞いたところ、「米軍と自衛隊とで共同使用するべきだ」(41.2%)が4割強で最も高く、次いで「日本に返還して福生市など関係市町のまちづくりにも使えるようにするべきだ」(29.8%)、「民間空港にするべきだ」(15.6%)となっている。

## 7. 防災・防犯対策

防災行政無線による放送について、10項目に分けてどのように思うか聞いたところ、「必要」と「どちらかと言えば必要」の2つを合わせた【必要】は、気象警報のお知らせ(大雨・土砂災害・光化学スモッグ警報など)(94.8%)が9割台半ばで最も高く、次いで行方不明者のお知らせ(93.5%)、火災発生場所、消防団出動のお知らせ(91.3%)となっている。一方、「どちらかと言えば不要」と「不要」の2つを合わせた【不要】は、選挙期間中の広報(34.8%)が3割台半ばで最も高く、次いで火の元・戸締り(23.1%)が2割強となっている。

防災訓練の参加状況を聞いたところ、「毎年参加している」(5.2%)と「参加したことがある」(35.5%)の2つを合わせた【参加したことがある】(40.7%)が約4割となっている。一方、「参加したことはないし、今後も参加するつもりはない」(7.5%)と「参加したことはないが、今後参加したい」(30.5%)、「防災訓練が行われていることを知らない」(19.7%)の3つを合わせた【参加したことはない】(57.7%)は6割弱となっている。

自主防災組織を知っているか聞いたところ、「知っている」(22.4%)が2割強となっている。「知らない」(75.4%)は7割台半ばとなっている。

自宅付近の避難場所を知っているか聞いたところ、「2か所以上知っている」(27.7%)と「1か所知っている」(54.6%)の2つを合わせた【知っている】(82.3%)が8割強と高くなっている。一方、「知らない」(16.4%)は2割弱となっている。

食料・飲料水の備蓄品の状況を聞いたところ、「1日分」、「2日分」、「3日分」、「約1週間分」、「1週間以上」の5つを合わせた【用意している】は、食料(70.6%)が約7割、飲料水(65.7%)が6割台半ばとなっている。一方、「用意していない」は、食料(28.3%)が3割弱、飲料水(32.9%)が3割強となっている。

身近な犯罪への不安を感じるか聞いたところ、「強く感じる」(34.0%)と「少し感じる」(45.9%)の2つを合わせた【感じる】(79.9%)が約8割と高くなっている。一方、「あまり感じない」(14.6%)と「ほとんど感じない」(4.5%)の2つを合わせた【感じない】(19.1%)は約2割となっている。

安全で安心して暮らすことができるまちづくりのために必要なことを聞いたところ、「警察や市による防犯パトロールの強化」(56.5%)が6割弱で最も高く、次いで「公共の場所(道路、公園、公共施設等)における防犯カメラの設置」(46.7%)、「公園や道路等における樹木の剪定、街路灯の増設等防犯環境の整備」(25.6%)、「不審者や犯罪発生等に関する情報提供」(25.6%)、「地域住民による防犯活動の推進(子どもの見守り、防犯パトロール等)」(21.8%)となっている。

協力している、または協力したいと思う防犯活動を聞いたところ、「町会・自治会による活動」(46.0%)が4割台半ばで最も高く、次いで「ボランティア団体による活動」(18.3%)、「PTAや子ども会による活動」(16.9%)となっている。「協力したいが、仕事等の都合で活動に参加することが難しい」(35.1%)は3割台半ばとなっている。

## 8. 多文化共生

多文化共生のための活動の参加意向を聞いたところ、「外国人に対して、差別や特別視をしない」(40.3%)が約4割で最も高く、次いで「外国人と一緒にレクリエーションやスポーツを通じた交流をする」(12.9%)、「外国語や外国に関する勉強をする」(10.5%)、「日本の言葉や習慣などを教える」(7.3%)となっている。

多文化共生を進めていく上で、特に力を入れるべきことを聞いたところ、「横田基地を利用して、アメリカの情報や文化の交流を盛んにする」(47.5%)が5割弱で最も高く、次いで「小・中学校での外国語教育に力を入れる」(38.6%)、「福生市独特の国際色豊かなまち並みをつくる」(28.9%)、「国際交流センターなど、多文化理解のための施策を推進する」(17.0%)、「外国の特産品の展示会を開くなどの経済交流を盛んにする」(16.5%)となっている。

## 9. イベント・観光

福生七夕まつりへの参加状況を聞いたところ、「毎年行く」(33.0%)と「ときどき行く」(32.8%)がともに3割強となっている。「めったに行かない」(20.9%)は約2割で、「まったく行かない」(11.7%)は1割強となっている。

福生七夕まつりに「毎年行く」、「ときどき行く」、「めったに行かない」と答えた方に、福生七夕まつりに行く理由を聞いたところ、「模擬店」(40.0%)が4割で最も高く、次いで「竹飾り」(30.2%)、「イベント」(19.4%)となっている。

まちなかおもてなしステーション「くるみる ふっさ」を利用したことがあるか聞いたところ、「ある」(8.6%)が1割弱となっており、これと「ない」(56.8%)の2つを合わせた【知っている】(65.4%)が6割台半ばとなっている。一方、「知らない」(33.4%)は3割強となっている。

まちなかおもてなしステーション「くるみる ふっさ」を利用したことが「ある」と答えた方に、利用した目的を聞いたところ、「名産品の購入」(48.5%)が5割弱で最も高く、次いで「観光情報の収集(市内)」(34.3%)、「ガイドツアーの参加」(12.1%)、「電動アシスト自転車のシェアリング『たっけー☆☆サイクル』」(11.1%)、「休憩(『福生まちなか涼み処・温み処』を含む)」(11.1%)となっている。

福生ドッグを食べたことがあるか聞いたところ、「ある」(47.0%)が5割弱となっており、これと「ない」(46.4%)の2つを合わせた【知っている】(93.4%)は9割強と高くなっている。

福生市では福生ロケーションサービスを設置し、映画やTVドラマのロケ撮影の誘致に取り組んでいることを知っているか聞いたところ、「はい」(56.4%)が6割弱となっている。一方、「いいえ」(42.8%)は4割強となっている。

## 10. 消費生活

日用品・食料品の購入店舗を聞いたところ、「スーパー」(94.4%)が9割台半ばで最も高く、次いで「コンビニエンスストア」(62.4%)、「ディスカウントストア・量販専門店」(37.3%)、「一般小売店」(25.2%)、「通信販売(インターネット注文)」(24.5%)となっている。

一番良く行くお店は市内・市外どちらにあるか聞いたところ、「市内」(68.0%)が7割弱と高くなっている。一方、「市外」(30.0%)は3割となっている。

市内の商店に希望するサービスを聞いたところ、「豊富な品揃え」(69.9%)が約7割で最も高く、次いで「品物の安さ」(63.8%)、「対応の良さ」(40.2%)、「ポイントカード」(26.8%)となっている。

福生市の消費者相談室を知っているか聞いたところ、「はい」(21.7%)が2割強となっている。一方、「いいえ」(76.2%)は8割弱となっている。

消費者問題についての関心事を聞いたところ、「食の安全」(61.6%)が6割強で最も高く、次いで「悪徳商法」(55.7%)、「インターネット」(16.9%)、「お墓・お葬式」(14.8%)、「通信販売」(13.0%)となっている。

## 11. 男女共同参画

男女の地位は平等になっていると思うか、5項目に分けて聞いたところ、「平等」は、教育の場では(58.6%)が6割弱で最も高く、次いで家庭生活では(46.6%)、職場では(32.6%)の順となっている。「女性の方が優遇されている」と「やや女性の方が優遇されている」の2つを合わせた【女性優遇】は、家庭生活では(14.1%)が1割台半ばとなっている。「やや男性の方が優遇されている」と「男性の方が優遇されている」の2つを合わせた【男性優遇】は、社会全体では(61.2%)が6割強で最も高く、次いで社会通念や習慣では(56.8%)、職場では(40.5%)となっている。

男女共同参画の実現に向けて市が特に力を入れるべきと思う取組みを聞いたところ、「高齢者・障害者の介護や支援に関する施策」(32.3%)と「ワークライフバランス(仕事と生活の調和)を高める子育て支援のための施策」(31.8%)がともに3割強で高く、次いで「女性の能力開発や就労支援」(30.0%)、「女性の健康支援・自立支援など、生活を支える取組み」(24.0%)、「市政などへの女性の参画の促進」(20.2%)となっている。

## 12. 行政改革

市にどのような行政改革を求めるか聞いたところ、「市の職員は、民間企業並みのコスト意識を持って事務事業を実施し、無駄をなくした効率的な運営に努めるべきである」(63.0%)が6割強で最も高く、次いで「市役所、その他市の施設の職員数はなるべく増やさないようにし、事業の委託化や臨時職員の採用など、工夫して事務事業を行うべきである」(41.7%)、「市の施設を利用したり、サービスを受ける場合、受益者がある程度の費用を負担するのは当然である」(33.8%)となっている。

過去1年間に福生市の8つの公共施設を利用したか聞いたところ、「月に1回以上利用した」、「2～3か月に1回程度利用した」、「半年に1回利用した」、「過去1年以内に1回利用した」の4つを合わせた【過去1年以内に利用した】は、図書館(40.6%)が約4割で最も高く、次いで市民会館・公民館(33.6%)、体育館(23.8%)、地域会館(19.8%)となっている。

## 13. 広報・ホームページ

「広報ふっさ」の閲読状況を聞いたところ、「詳しく読む」(14.9%)と「ざっと目を通す」(49.8%)、「必要などころだけ読む」(16.7%)の3つを合わせた【読む】(81.4%)が8割強と高くなっている。一方、「ほとんど読まない」(14.1%)と「見たことがない」(3.1%)の2つを合わせた【読まない】(17.2%)は2割弱となっている。



「広報ふっさ」を「詳しく読む」、「ざっと目を通す」、「必要などころだけ読む」と答えた方に、関心のある記事を聞いたところ、「催しもの関係（市の行事・案内など）」（37.4%）が4割弱で最も高く、次いで「保健・衛生関係」（13.7%）、「福祉関係」（10.5%）、「税金関係」（9.3%）、「教育・文化関係」（9.2%）となっている。

「福生市議会だより」の閲読状況を聞いたところ、「詳しく読む」（4.1%）と「ざっと目を通す」（40.6%）、「必要などころだけ読む」（11.7%）の3つを合わせた【読む】（56.4%）が6割弱と高くなっている。一方、「ほとんど読まない」（36.8%）と「見たことがない」（5.2%）の2つを合わせた【読まない】（42.0%）は4割強となっている。

「福生市議会だより」を「詳しく読む」、「ざっと目を通す」、「必要などころだけ読む」と答えた方に、関心のある記事を聞いたところ、「一般質問について」（35.8%）が3割台半ばで最も高く、次いで「可決された案件や陳情」（26.0%）、「委員会の活動状況」（21.4%）となっている。

「福生の教育」の閲読状況を聞いたところ、「詳しく読む」（3.1%）と「ざっと目を通す」（27.8%）、「必要などころだけ読む」（7.8%）の3つを合わせた【読む】（38.7%）が4割弱となっている。一方、「ほとんど読まない」（42.6%）と「見たことがない」（15.9%）の2つを合わせた【読まない】（58.5%）は6割弱となっている。

「福生の教育」を「詳しく読む」、「ざっと目を通す」、「必要などころだけ読む」と答えた方に、関心のある記事を聞いたところ、「学校教育関係」（62.4%）が6割強で最も高く、次いで「生涯学習関係」（22.6%）、「教育委員会定例会関係」（6.3%）となっている。

市の情報を何から得ているか聞いたところ、「市の広報紙」（77.5%）が8割弱で最も高く、次いで「町会、自治会の回覧物」（38.9%）、「市で作成したパンフレット、ポスターなど」（25.8%）、「市のホームページ」（14.9%）、「新聞、テレビなどのマスメディア」（10.4%）となっている。

「ふっさ情報メール」の認知状況を聞いたところ、「知っている、登録もしている」（13.2%）が1割強となっており、これと「知っているが登録していない」（25.7%）、「知っているが登録の方法がわからない」の3つを合わせた【知っている】（45.1%）が4割台半ばとなっている。一方、「知らない」（52.8%）は5割強となっている。

福生市議会のインターネット中継閲覧状況を聞いたところ、「ライブ中継と録画中継の両方を見たことがある」（1.5%）と「ライブ中継のみ見たことがある」（2.8%）、「録画中継のみ見たことがある」（3.5%）の3つを合わせた【見たことがある】（7.8%）が1割弱となっている。一方、「中継を知らなかったため見たことがない」（39.9%）は約4割、「中継に関心がないため見たことがない」（30.1%）は約3割となっている。

福生市議会のケーブルテレビによる中継視聴状況を聞いたところ、「見たことがある」（11.5%）が1割強となっている。一方、「ケーブルテレビによる中継を見ることができないので見られない」（37.8%）は4割弱、「中継に関心がないので見たことがない」（22.8%）と「ケーブルテレビで中継していることを知らなかったため見たことがない」（22.1%）はともに2割強となっている。

福生市議会本会議の傍聴経験を聞いたところ、「傍聴したことがある」が4.0%となっている。一方、「関心がないので傍聴したことがない」(39.4%)は約4割、「関心はあるが機会がなかったので傍聴したことがない」(32.4%)は3割強、「傍聴について知らなかったので傍聴したことがない」(18.6%)は2割弱となっている。

## 14. 市民と市政

どのような方法で市政に参加したいと思うか聞いたところ、「市の各種世論調査」(32.1%)が3割強で最も高く、次いで「イベントなどへのボランティア参加」(23.9%)、「まちづくりモニター制度」(12.6%)、「市と協働する市民活動」(12.6%)、「学校支援のためのボランティア参加」(12.3%)となっている。

施策への要望を聞いたところ、「高齢福祉施策の推進」(29.8%)が約3割で最も高く、次いで「騒音などの公害対策」(27.1%)、「地震などの防災対策」(21.3%)、「健康診査などの保健施策」(17.8%)、「道路や排水の整備」(16.5%)となっている。

市の施策の認知状況を14項目に分けて聞いたところ、「良く知っている」と「少し知っている」の2つを合わせた【知っている】は、市民無料相談(56.6%)が6割弱で最も高く、次いで市民農園の貸出(52.3%)、電動アシスト自転車のシェアリング「たっけー☆☆サイクル」(37.7%)、中学校ランチルーム(36.2%)、福生市にお住まいの方は、西多摩8市町村と昭島市の図書館を利用できる(31.7%)となっている。

## 15. 生涯学習

運動・スポーツの実施頻度を聞いたところ、「週に3回以上」(25.2%)と「週に1～2回」(24.5%)の2つを合わせた【週1回以上】(49.7%)が約5割となっている。「月に1～2回」(13.4%)と「年に1～2回」(12.3%)、「行わなかった」(12.3%)はそれぞれ1割強となっている。

最近の1年間で運動やスポーツを行ったと答えた方に、運動する目的を聞いたところ、「健康・体力づくり」(63.8%)が6割強で最も高く、次いで「運動不足解消」(60.1%)、「楽しみや気晴らし」(38.4%)、「美容や肥満解消のため」(21.1%)、「仲間との交流」(20.4%)となっている。

読書をしているか聞いたところ、「読む」(49.2%)が約5割となっている。「読まない」(47.2%)は5割弱である。「読む」と答えた方に、1か月に読む冊数を聞いたところ、「月1冊」(33.6%)が3割強で最も高く、次いで「月2冊」(26.5%)、「月3冊」(15.1%)となっている。